

## コロナ禍のにっぽん丸クルーズ

個人会員 岡島 純

新型コロナウイルスのオミクロン型が蔓延しつつある中、2月神戸発着にっぽん丸30周年記念イベントクルーズを申し込んだが、人気がありキャンセル待ちで1月17日名古屋発着こんぴらさんクルーズに30周年記念イベントが追加され予約可能であると連絡があり乗船してきた。乗船記は別の機会にするとして、本稿はコロナ感染症予防対策されているクルーズ状況を紹介する。

送付された案内書に「新型コロナウイルス感染症への取り組みとして（一社）日本外航客船協会の「外航クルーズ船事業者の新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を基に、（一財）日本海事協会の認証を取得した、商船三井客船「新型コロナウイルス感染症予防対策マネジメントマニュアル」に則り運航されています」と記されている。

予約した後乗船10日ほど前にPCR検査キットが送付され、唾液を専用容器に入れて返送すると、登録したメールアドレスに結果が通知される。この方式は2020年12月に乗船した「飛鳥II」と方式や検査会社は同じであった。ただ、医師の確定診断がないため、結果は「高リスク」「低リスク」「再検査」で通知される。「低リスク」の結果者のみが乗船可能となるが、2020年と違って第一閑門で完了ではなく、検査が更に行われる。そのため、乗船前までは日常生活で人ごみへの外出や同行者以外との会食などは避け感染を防ぐことが必要となる。最終閑門は乗船日当日にPCR検査である。

乗船当日。出港時間5時間半前から客室タイプによって集合時刻異なっており、港から離れたホテル受付で「健康質問票・にっぽん丸クルーズご留意事項および同意書」を提出し、新型コロナウイルスワクチン接種証明書を提示しPCR検査を行う段取りであった。検査結果判定までホテルから外出できず、新聞や本などを持ってくるのがよいと案内されていたが、マジックショーやエクササイズのイベントが催され、昼食が用意されていたので2時間半ほどの待ち時間は苦にならなかった。PCR検査があるため、待ち時間中のイベント企画が必要になり、企画案つくりに負担が増えているのではないかと思われる。

検査結果判定で「全員問題なし」と発表されたが、もし、「高リスク」者がいる場合はどのように伝えられるかが気になるところであった。その後、検査受付順から港への送迎バス乗車案内があったが、客室タイプでバス乗車案内にしていく方法にすべきではないかと思われる。案内書ではスイートルーム・デラックスルームの乗客は集合時刻が遅い為、最後に乗車・乗船となってしまう。

港に到着し、乗船口で検温と手指消毒を行い、乗船証受け取り客室に行くことができた。当然ながら人が集まる出港式は実施されず、ボートドリルは実施された。実際に救命胴衣は着けずに参加し、航空機同様乗組員がデモンストレーションを行うのを見るだけであった。参加時は検温と乗船証の確認が行われた。

船内の各所に手指消毒アルコールが置かれ、公室に入る際にサーマルカメラで検温し、乗船証をかざす。図書室やカードルームは退出時も乗船証をかざすこととなっているが、退出時は忘れてしまうことが多かった。また、客室内のテレビで大浴場の混雑状況を観ることができ、安全面が強化されている。しかしながら、ショップやドル

フィンホールの出入りは飛鳥Ⅱのように一方通行方式でなく、検温もされなかった。椅子は間隔が空けられていた。観客と舞台の間に大きなアクリルパネルが設置され、演者の飛沫を防止しているのが特徴的であった。アクリルパネルがあるためライトの反射があり、座る場所によって見難いかもしない。食事を提供する場は席と席の間にアクリルパネルや透明ビニールが設置され、着席時に椅子にあるQRコードと乗船証をスタッフが毎回読み取り記録している。サーブするスタッフはマスクとフェースシールドを着用し、注文時の会話をうだけであった。全てビュッフェ式でなくメニュー方式であり、20時以降の飲食サービスに限り、テイクアウトができるようになり客室で気兼ねなく話すことができる。ナイトスナックの汁物はテイクアウトができないという一部制約はあるもののダイニング前の受付で受け渡してくれる。

本クルーズは乗客が少なかったため、乗下船時や船内で密になるような場面に遭遇しなかった。

本船は乗船前からコロナウイルス感染症対策がなされており、安全・安心なクルーズを行うことをもっと広めていく必要がある。

